

(氏名) 阿久津 由佳	(学部) 経済学部
1 重要事項 (1) 英語カリキュラムの遠隔実施への対応 2020 年度は、突如始まった遠隔授業への対応に英語カリキュラムを運営する英語部会員として全力を注がざるを得ない 1 年であった。刻々と変わる状況下で、一つの状況に対応するために動き、また状況が変化して動くという繰り返しだった。その対応を決めるための英語部会は 1 年間で 34 回開催され、1 回の開催時間は平均 4 時間程度かかっている。また、その正式な会議以外でも Teams の「英語部会」でのオンラインメール会議もほぼ毎日動き、会議のための原案作成や修正、非常勤の先生方や大学に提出する資料の作成、チェックなどにも膨大な時間を費やした。 特に必修科目についての新たな指針、内容、実施方法など詳細の決定及び説明、実施中の問題への対応には非常に時間がかかった。50 人を超える非常勤講師による 200 クラス近い必修英語の授業に関して、遠隔でもカリキュラムの目標達成のためにできるだけ効果があり、かつ質を担保できて公平なシラバスや授業体制、内容、実施方法とは何かについて時間をかけて調査し、作成し、説明を行った。主な内容は以下の通り。 a. 遠隔授業に必要な大幅な必修英語全体のシラバス変更 2019 年度中に決定していた 2020 年度のシラバスで、遠隔授業で対応できる内容とそぐわない内容を検討し、必要な修正を行った。また、断念せざるを得ない内容については別の教材を用意した。遠隔授業という初めての環境下においても同一科目内での等質で充実した授業の確保を目指し、授業で実施すべき内容や宿題などについても細かく文書化して先生方に提供した。 b. 非常勤の先生方に対するシラバス変更の説明のための zoom セッション c. 非常勤の先生方に遠隔授業の技術的な点について説明および実際に練習していただく zoom セッション 初めての遠隔授業で、zoom や Teams を利用したことのない先生方も多かったため、説明会と授業開始前に実際に使用していただく機会を作った。 d. 実際に授業を実施していく上での非常勤講師の方々からの質問や相談への対応 (Zoom およびメール、Teams での対応など) e. 2021 年度からの対面授業に対応するための英語授業特有の問題点についての洗い出しとそれに対応したガイドラインの作成 安全で効果的な英語授業実施のためには講義形式の授業とは異なる授業スタイルが必要となる。非常勤の先生方が授業内で実施すべき方策や注意点などについて英語部会でガイドラインを作成した。 f. 2021 年度新共通シラバスの作成 制限のある状況下でのカリキュラム実施のため、新たに担当レベルの共通シラバスを作成し、非常勤の先生方に説明等を実施した。 g. 2020 年度授業担当者会議 2020 年度に英語科目をご担当いただいた非常勤の先生方と 2020 年度の振り返りと 2021 年度の新カリキュラムについて 2 度会議を開催し、全体会と担当レベルの先生方との分科会を実施した。分科会ではレベルコ	

ーディネーターを務める 3 科目について、担当の先生方と話し合い、問題点などを共有するとともに、今後の新カリキュラム作成に向けて、各科目内容、遠隔授業やカリキュラムの評価についても意見をうかがった。

(2) 研究

前年度に引き続き英語の語用論的要素をどのように学校英語教育に取り入れるかについての研究を進めているが、遠隔授業対応に追われ研究にあまり時間を割けない 1 年であった。また、参加予定であった国際学会も中止となってしまった。しかし、一方でオンラインによる学会も多数開催されたため、これまで参加しにくかった国内外の学会等に参加することができた。

JALT オンライン学会

10/10 Pragmatics in the English Classroom

11/14 Performance-based Language Assessment

2 その他の事項

遠隔授業の状況下だったが、英語資格試験の受験や英語力を伸ばすための勉強法などの相談があり、メールや Zoom など個別相談を実施した。

3 次年度以降の計画・抱負

2021 年度は、まずは多くの制限下での対面授業実施においての問題対応に当たることになると思われる。次に、現行カリキュラムの評価をし、今後の変更を始めてべき年なので、英語部会で分担して進めていきたい。また、2020 年度にあまり時間をとれなかった分、研究に精力を注ぎたい。特に遠隔授業の実施により新たな分野への関心も高まってきたので、従来のテーマに加えて研究を進めてみたいと考えている。